

科目名	労働法 I				
英語科目		ナンバリング	(https://syllabus.kyoto-su.ac.jp/syllabus_search/#n) を参照		
開講期	春学期	開講学部等	法学部	配当年次	2 年次
教員名	岩永 昌晃			単位数	2 単位

授業概要／Course outline

皆さんの中には、アルバイトとして働いた経験がある人もいることでしょう。また、大学を卒業すると、多くの人が、会社等で働くことでしょう。働いた際に、給与の額が、最初に約束していた額よりも少ないという場合、そして、そのことに苦情をいったら「明日から会社に来なくてもいい」といわれてしまった場合、皆さんは、どうしますか。また、経営状態が悪化したことを理由に、給料を引き下げられてしまった場合には、どうしますか。このような働く上で生じる様々な問題を解決するための法的ルールを定めるのが、労働法です。働く人にとって、労働法を学ぶということは、働く上で知っておくべきルールを学ぶことといえます。

また、労働法は、企業運営の要となる人事・労務に関わる法でもあります。その意味では、労働法を学ぶことは、働く人のみならず、これから人を雇って事業を始める人や経営者になる人にとっても重要といえます。

この講義では、労働法のうち、総論部分と労働契約の成立、展開、終了などの労働契約法を中心に解説します。

授業形態、授業方法等／Course form・type

【授業形態】

対面授業

【授業方法】

講義

授業内容・授業計画／Course description・plan

第 1 回 労働法の考え方、体系

授業スケジュールを確認し、この授業での到達目標や身につく力について説明をする。

労働法の考え方、全体像、学ぶ意義について解説する。

第 2 回 個別的労働関係法上の当事者

個別的労働関係法上の当事者である労働者および使用者について解説する。

第 3 回 労働条件の決定手段

労働条件の決定手段と各手段の関係について解説する。

第 4 回 就業規則

就業規則に関する労働基準法や労働契約法のルールについて解説する。

第 5 回 解雇（1）

解雇とそれを規制するルールについて解説する。

第 6 回 解雇（2）

前回に続き、解雇とそれを規制するルールについて解説する。

第 7 回 労働契約の成立

労働契約の成立に関する法的問題（採用、内定、試用）について解説する。

第 8 回 労働契約上の権利義務

労働者と使用者の基本的権利義務および付随義務について解説する。

第 9 回 賃金

賃金に関わる法的問題について解説する。

第10回 人事（1）

人事に関するルールのうち昇進・昇格・降格、配転について解説する。

第11回 人事（2）

人事に関するルールのうち出向・転籍、休職について解説する。

第12回 懲戒

懲戒処分をめぐる法的問題について解説する。

第13回 労働条件の変更

就業規則や合意による労働条件の不利益変更の法的問題について解説する。

第14回 労働契約の終了

解雇以外の労働契約の終了事由（辞職、合意解約、定年）について解説する。

★オンデマンド 試験及び振り返り

第1回から14回までの内容についてmoodle上で試験を実施する（60分）。moodle上の試験は別途指示する所定期間内に受験しなければならない。

上記の所定期間終了後、解説動画を配信する（30分）

事前・事後学修／Preparation and assignments

第1回 労働法の考え方、体系

〔事前学習〕教科書1の該当箇所（3-12頁）を読む。

〔事後学習〕教科書1の該当箇所を読み、授業内容をまとめる。講義で言及された判例について、教科書2を読んで、その内容をまとめる。小テストを受験する。

第2回 個別的労働関係法上の当事者

〔事前学習〕教科書1の該当箇所（21-25頁）を読む。

〔事後学習〕教科書1の該当箇所を読み、授業内容をまとめる。講義で言及された判例について、教科書2を読んで、その内容をまとめる。小テストを受験する。

第3回 労働条件の決定手段

〔事前学習〕教科書1の該当箇所（13-18頁）を読む。

〔事後学習〕教科書1の該当箇所を読み、授業内容をまとめる。講義で言及された判例について、教科書2を読んで、その内容をまとめる。小テストを受験する。

第4回 就業規則

〔事前学習〕教科書1の該当箇所（105-111頁）を読む。

〔事後学習〕教科書1の該当箇所を読み、授業内容をまとめる。講義で言及された判例について、教科書2を読んで、その内容をまとめる。小テストを受験する。

第5回 解雇（1）

〔事前学習〕教科書1の該当箇所（85-100 頁）を読む。

〔事後学習〕教科書1の該当箇所を読み、授業内容をまとめる。講義で言及された判例について、教科書2を読んで、その内容をまとめる。小テストを受験する。

第6回 解雇（2）

〔事前学習〕教科書1の該当箇所（85-100 頁）を読む。

〔事後学習〕教科書1の該当箇所を読み、授業内容をまとめる。講義で言及された判例について、教科書2を読んで、その内容をまとめる。小テストを受験する。

第7回 労働契約の成立

〔事前学習〕教科書1の該当箇所（26-38頁）を読む。

〔事後学習〕教科書1の該当箇所を読み、授業内容をまとめる。講義で言及された判例について、教科書2を読んで、その内容をまとめる。小テストを受験する。

第8回 労働契約上の権利義務

〔事前学習〕教科書1の該当箇所（38-44頁）を読む。

〔事後学習〕教科書1の該当箇所を読み、授業内容をまとめる。講義で言及された判例について、教科書2を読んで、その内容をまとめる。小テストを受験する。

第9回 賃金

〔事前学習〕教科書1の該当箇所（115-125頁および131-133頁）を読む。

〔事後学習〕教科書1の該当箇所を読み、授業内容をまとめる。講義で言及された判例について、教科書2を読んで、その内容をまとめる。小テストを受験する。

第10回 人事（1）

〔事前学習〕教科書 1 の該当箇所（44-51頁）を読む。

〔事後学習〕教科書 1 の該当箇所を読み、授業内容をまとめる。講義で言及された判例について、教科書2を読んで、その内容をまとめる。小テストを受験する。

第11回 人事（2）

〔事前学習〕教科書 1 の該当箇所（51-59頁）を読む。

〔事後学習〕教科書 1 の該当箇所を読み、授業内容をまとめる。講義で言及された判例について、教科書2を読んで、その内容をまとめる。小テストを受験する。

第12回 懲戒

〔事前学習〕教科書 1 の該当箇所（68-77頁）を読む。

〔事後学習〕教科書 1 の該当箇所を読み、授業内容をまとめる。講義で言及された判例について、教科書2を読んで、その内容をまとめる。小テストを受験する。

第13回 労働条件の変更

〔事前学習〕教科書 1 の該当箇所（111-114頁）を読む。

〔事後学習〕教科書 1 の該当箇所を読み、授業内容をまとめる。講義で言及された判例について、教科書2を読んで、その内容をまとめる。小テストを受験する。

第14回 労働契約の終了

〔事前学習〕教科書 1 の該当箇所（77-85頁および100-104頁）を読む。

〔事後学習〕教科書 1 の該当箇所を読み、授業内容をまとめる。講義で言及された判例について、教科書2を読んで、その内容をまとめる。小テストを受験する。

★オンデマンド 試験及び振り返り

〔事前学習〕第1回から14回までの内容を復習する。

〔事後学習〕授業全体のまとめを行い、試験についての振り返りを行うこと。

※各授業に対する事前・事後学修は約180分を目安とし、合計で2,700分程度とする。上記内容を確認して、しっかりと事前・事後学修を行うこと。

授業の到達目標／Expected outcome

- ・労働契約法に関わる基本事項（定義、要件・効果、制度趣旨）を説明できるようになること。
- ・典型的な事例や著名な判例の事例の法的解決を説明できるようになること。

身につく資質・能力／Competencies to be attained

- ・主体性
専門知識・専門技能
【法学部 法律学科】
 - ・法律学・政治学の基礎知識【法学部 法政策学科】
 - ・法律学・政治学・政策学の基礎知識

履修上の注意／Special notes, cautions

- ・履修条件：他学部生は、人事労務プログラム登録者に限る。

評価方法／Evaluation

- ・授業回ごと（第1回～14回）に実施する小テスト（60%）
小テストは、所定の期間内しか受験できない。各回の小テストは、10点が満点である。最終評価においては、小テスト14回の合計点（140点満点）を、60点満点に換算する。
- ・★オンデマンドの回に実施する試験（40%）

教 材／Text and materials

- ・教科書： 1 有田謙司ほか編『ニューレクチャー労働法（第3版）』（成文堂、2020）
2 村中孝史・荒木尚志編『労働判例百選（第10版）』（有斐閣、2022）

質問や相談の方法／Instructor contact

・オフィスアワー：金曜日昼休み（12:15～13:15）